

## 社会科学習ワークシート⑫

教科書 P52～53 を読んで考えよう。

### 復興を願う市や市民の取り組み

#### 気仙沼市役所の小野寺さんの話

(かつお)や(さめ)の水あげが有名な気仙沼市では、(水産業なし)の復興は考えられません。そこで、(市民)も参加して、いろいろと話し合い、「(海と生きる)」を合言葉に、大震災を克服し、新しい気仙沼をつくるために、(気仙沼市震災復興計画)をつくりました。

震災復興計画をもとに、(住宅)や(道路)、(橋の整備)、新しい(魚市場)の建設などを進めてきました。市民の(意見)を(県)や(国)に伝えたり、予算や制度を利用して(市民の要望)を(具体的)に実現したりするのが、(市役所)の役割です。

震災前の状態にもとすだけでなく、(災害)に強く、(水産業)という(特色)を生かした(まちづくり)に取り組んでいます。

- 市民の(願い)をもとに、市が立てた計画にそって、復興が進められている。
- まちづくりには、水産業という気仙沼の(特色)を生かすことが大切。
- 復興を進めていくうえで、(国)や(県)の果たす役割も重要。

#### 気仙沼漁港の小松さんの話

(大震災)による漁港のダメージは、かなり深刻なものだった。

すぐに(対策本部)をつくり、高い目標を立てて、復興に向けて努力。

(国)や(県)、(市)のすみやかな対応もあり、震災から約3か月後には、

生鮮かつおの水あげを再開することができた。

震災の年もとぎれることなく、気仙沼は、20年以上連続で  
(生鮮かつお)の水あげ日本一を続けている。

今後は、限りある(水産資源)を守りながら、水産業を進めていくこと  
も大切。